

ときどき「森の格言」を織り交ぜながら長年の経験や得た知識、考えて抜いてこられたことから出てくるズバリの理論は気持ちよく、一生懸命頭フル回転でついていかねばなりません、たいへん楽しかったです。

聞いて
見て
考える。

鋸
谷
茂
さん
訪
問

森
と
木
の
研
究
所

2012.7.8 in 福井県高浜町

施業 * 人間の一生80年、木800年 *

- ・最近、長伐期への移行と言われるが、私たちより10倍長く生きる木の成長量、地位指数など調査資料がまだない。
- ・「結果」とはどの時期か。林政は長い目で見たスパンで考えるべき。目まぐるしく施策や方針が変わるのはよくない。
- ・健全とみなせるニンゲン（人間）は人間ドックで数値が出る。

健全とみなせるキとは？

（立木密度、胸高断面積合計、相対幹距比 / 胸高直径、樹冠長率、形状比）

山の健全性を数値で表す ← HP でチェック。もうすぐ書籍も出ます♪

- ・「農業は面の産業だが林業は空間の産業」
 - 一生懸命下ばかり向いていないで視線を上へ。空間を見よ。樹冠の重なりは、2本（3本まででもいい）。
 - ・人間が「管理」できることとできないことがある。
 - ・「間伐手遅れ林は宝の山」
- うっそうとしたモヤシのような林内でもしっかり一本一本の木を見ていけば間伐して残したい木はある。
- ・チップや集成材にしなくても「使い出」はある。

さまざまな被害 1

* 台風などの被害は少々はある当たり前 *

- ・「平均値」は意味がない。もしかしたら被害を受ける受けない、施業の方法が違うなどの「境界」かもしれない、起きたところを見ないと意味がない。
- ★どんな災害でも樹冠長率60%以上が被害後も概ね残っている。Cf.（黄金律 62：38）
- ・樹冠長ヒノキ5m、スギ6m それ以上は、樹高がどれ



左：60年生。春に間伐した。

右：未間伐。



だけ高くなっても同じ。林縁部もそろえる。バランスの問題。

- ・ 長伐期の場合、しっかり樹幹長をとる。
- ・ 有名林業地のマネをしてはいけない。その地にあった施業をしている。

ひょっとしたら吉野などの有名林地は山崩れなどが少ない好条件、もしくは地形的に台風などで激しい気象が起こりにくいのかもかもしれない。

★人工林の風雪害抵抗力 … 50 年たって風速 40m ふけばいつ倒れてもおかしくない

{	個体抵抗力	どんどん下がる
	集団抵抗力	増えることはない
	回復力	幼齢期は強くだんだん弱まる

木を伐る * 年輪の夏目、冬目 *

・ 夏場、細胞がひらきっぱなし = 水分が多い。動物は脂肪、植物はデンプン質が多い。

7 月がピークで夏にかけて減る = 夏目（やわらかいところ）

秋から 10 月が最低限 = 冬目（かたいところ） デンプン質は秋以降少なくなる

偽年輪 = 夏から秋の「成長している？」という時期

・ 「枯れ木も山のにぎわい」

枯れ木にリスやキツツキがくる。動物の住むところがなくなって用材に穴があいてもいいですか？

- ・ 伐根……建材ではない、材質が違う。が使い道はある。
- ・ 枝打ち…愛媛で見た四方無節、二階部分、梁の上は見えない。 → 枝打ち 6m まででよい！

★★ 間伐 = 樹冠長を確保！

・ なすび伐り？ ⇔ 鋸谷式？

一辺倒で考えない。前提条件で変わる。

木を植える * 植えずに育てる *

- ・ ブナの生きているところには、ヒノキよりブナ。
- ・ スギ・ヒノキの植林時、タラ、アカメガシワ、カラスザンショなどを一緒に植える。また、その日陰下で待っているタネもいる。
- ・ そのようなトゲトゲの木はごんぼのような根



使いよう：ある意味「集成材」。

35 年でこんなに太くなる。

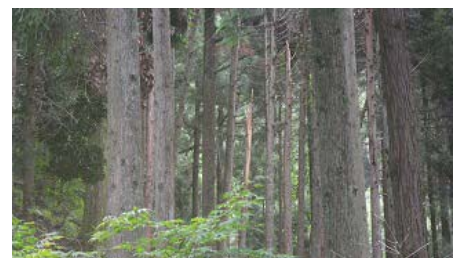


樹冠長は下から

ながめていると 1、2 割ほど誤差がある。



先端が折れてしまった木は伐るか？
成長にも材にするときも先端は関係がない。
個体条件の優先性と集団の中での価値とで考える。



折れて枯れたら、それはある意味自然が選木してくれたということ…。

↑ニンゲンが杭をうつのと一緒。ススキも大事。

- ・その地その地で生えてくるものには草でも雑木でもすべて理由がある。うまく利用する。
- ・道づくりはその時々。ただし幹線はルートが大事。主伐期に回収する時入れる道を想定して植える。
- ・道づくりの際の掻き出し排土は崩壊の危険度が大きい。
←地山と同じ勾配で客土する。下層植生が泥をとめる。
- ・お手本は神宮の営林。最先端の施業法。五十鈴川は濁らない。
- ・地質の問題ではない。土質をよく見る。

広葉樹 * トチを切るバカ植えるバカ *

- ・スギ、ヒノキは適応力があるから植える（植林は良い、管理が悪い）
- ・トチの2次林？1,2本/haは放っておいても生えてくるが。

政策 * 森林・林業再生プラン *

- 間伐すべき森林を明示 ← 指針がない
- 皆伐や更新に関する基準・指針を設定 ← ない
- 国産材利用の加工・流通体制の確立 ← チップ・集成材にするなんてもったいない
- 搬出の路網整備を加速化 ← 良いが経験、知識、技術不足が心配
- 林業事業体の育成、フォレスターなど人材の育成
← 育成する人が不足



同じ年月を生きてきても個性様々。

道づくりの際、斜度30度までの場合、法長を2m以上にしてはいけないのはなぜか。垂直に1mは木や草の根が土を抱えてくれる。斜度を考えたら1.5mまで、あとの50cmは下崩れで安定する。間伐後の伐根の下は崩れてきている。



道づくり：道は水を集めないように作る。面で受ける。水の道をよくよむ。角を作らず谷川に傾斜させている。排土は分散して撒く。

ケヤキ：若いころの鋸谷さんがいつも「伐ったろ」と思っていたケヤキ。枝が普通の幹くらいに太い。今となっては財産。道にびっしり生えているのは、すべてケヤキの実生！（サンショも結構混じりつつ）どんな条件が揃ったのかこんな年もあって多様な植生が残る。すばらしい！



芦生スギ。雪の重みなどで下層の枝が地面について根付き「もう一本の木」となる。植えてなくても殖える例。



シカの皮剥ぎ害対策。木の根元だけ枝を残すというアイデア。

さまざまな被害2 * 獣害 *

- ・肉食獣＝頂点がいなくなる。(100年前オオカミ絶滅、40年前から野犬狩り) シカ・シシ天国となる。
- ・動物が本来持っている能力を利用する。野犬一匹で1～2haをカバーできる。
- ・縄張りをつくり、イノシシ、シカを追う。でも縄張り以上は追わない。
- ・イヌを利用するなら必要以上に可愛がらない。
(十分愛おしそうでしたけど…。イヌの飼い方にも鋸谷式…多く理論がありそうです。)

鋸谷さんちのイヌは咬まないし吠えない。見た目は「かわいい！」くらいですが…。放し出した初期は放すと獲物をめがけて走り出したが「今は放してもにおいをくーんと嗅ぎまわして何も気配がなかったら走り出さないですよ。」

*** もっと詳しい史料は森林の風文庫にあります (紙、データで保存) ***

